

アメリカ合衆国における品性教育

ヤング・マルキー
犬飼孝夫訳

目次

- 一、必要性
- 二、公教育制度の役割
- 三、品性教育カリキュラム
- 四、評価
- 五、品性教育に対する援助
- 六、結論
- 一、必要性

U・S・ニュース・アンド・ワールド・レポートの一九八一年二月二十四日版は、次のように述べている。

最近のアメリカのティーンエイジャーは、彼らに対して敵対的で無関心と思われる社会のなかで、大人になつてゆくことに抵抗を感じ、大人になることのプレッシャーにうまく対応できない。二、七〇〇万のティーンエイジャーのうち、三分の一が、人生の困難に取り組めないようだ、とある社会学者は語っている。彼ら

は、成長の過程に必要な、自制心を欠いたまま成長しているのである。

一九八七年にサン・アントニオ・エクスプレス・ニュースが報道している通り、FBIによる恐るべき統計に現われたものは、まさにこの自制心の欠如であった。この報道によると、一九八五年に一五歳以下の若者が犯した犯罪は、以下のとおりである。

殺人、殺人未遂	三八一
傷害	一八、〇二一
窃盗	一三、八九九
強姦	二、六四五

更に恐るべき事実は、以下に示しているように、この統計のうち、一二歳以下の子供の占める割合である。

殺人、殺人未遂	二二
傷害	三、五四五
窃盗	一、七三五
強姦	四三六

十代の犯罪に関する統計は、問題の一部分を表わしているにすぎない。この他に、麻薬やアルコールの乱用、他の有害物資の乱用、十代の未婚の母、高校中退、十代の自殺なども増加の一途をたどっている。サン・アントニオ・ライト紙（一九八七）の報告によれば、一五歳から二四歳では、殺人ではなく、自殺が死因の第二位となっている。十代の交通事故による死亡者一七、〇〇〇人中の一部は、自殺によるものと推測されている。このような問題は、スラム街やその他の、社会経済的に低い階層出身の若者に限ったことではない。U・S・ニュース・アンド・ワールド・レポート（一九八七）によれば、都市部や郊外の若者を調査した専門家は、これらの問題は、「物質的に恵まれた環境の下で育てられた中流階級の子供に特に見られるものである」と述べている。

一二歳以下の子供達による犯罪の統計は、予防手段を講じるとすれば、もっと小さいころから始めなければならないことを示しているといえよう。ムッサン（一九七四）は、子供の態度や価値観の発達ならびに、教育過程の開始にとって、最初の数年間が重要であると述べている。

二、公教育制度の役割

今日の社会にこのような問題が、これほど蔓延した理由は何であろうか。学校側は、親が子供に適切な価値観や態度を教えないと非難し、親は、子供が問題を起こしたり、反社会的な行動をとると、学校を非難する。レーガン大統領および政府部内の者は、「学校教育の失敗の主たる原因は、価値観の教育の欠如にある」と結論づけている（Lewis、一九八七）。

政治学者ジョージ・ベンソンと、トマス・エンゲマンは、犯罪の増加は、学校教育における「倫理教育の衰退」と関係があると述べている（一九八二）。また、前教育次官で現在ホワイトハウスの国内政策審議官であるゲイリ

ー・パウアーは、学生、生徒のアルコール中毒症、麻薬の乱用、蛮行などの原因は「アメリカの学校における道徳教育の恐るべき状況」にあると述べている (Lewis 一九八七)。

テキサス初等教育学校長及び指導主事会の一九八五年四月の会報には、教育長官、ウイリアム・J・ベネットの演説が掲載されている。その中で彼は、アメリカの学校は、今や「三つのR」から、「三つのC」、すなわち、内容 (content)、品性 (character)、選択 (choice)、にまで拡大しなければならないと述べている。さらに彼は、学校は基礎教科の教育ばかりでなく、人文科学や、アメリカの理想、誠実さ、法に対する尊敬の念などの道徳的特性をも教えなければならぬと述べている。長官は次のような価値観を挙げている。

良い教育とは、技術を教えるだけのものではない。我々は、思いやり、忠節、親切、誠実さ、法を尊重する精神、善悪の基準、勤勉、公平、自己修練などをも教えなければならない。

著名な社会学者である、アマタイ・エッチオーニ (一九八三) は、教育委員会は、教員の給料の増額、学校年度の延長、基礎教科の重視といったことにあまりにも関心を向けすぎていると考え、次のように述べている。

子供の心理的、人格的発達こそはるかに重要なことである。子供が、物事に集中し、それを成し遂げるための、精神的な持久力——教師は普通これを品性と呼ぶ——を持っていなければ、子供は学習できないのである。学習の前提条件となるものは内的な力と自己修練である。

近年、いくつかの州は、青少年のこれらの側面での発達に、学校が取り組む必要があることを認識し始めた。州の教育委員会は、カリキュラムの中で「品性」、「倫理」、「価値観」、「道徳」、を重視するよう学校に要請する命書を出し、上院及び下院では、同様な趣旨の法案が通過した。

ヴァージニア州は「倫理的価値観」とし、カリフォルニア州は、「倫理と市民的価値観」を規定している。ノースダコタ州は、「道徳教育」を求め、ミシガン州は特定の「道徳的価値観」を列挙している。メリーランド州では、「品性価値観」と「市民的価値観」を区別し、ネブラスカ州とテネシー州では「品性教育」と呼んでいる。

用語はどうであれ、これらの動向は、青少年が様々な問題にうまく対応し、有効に解決できるように導くことへの関心の高まりを示している。このような援助を行うことにより、青少年は、社会の中で責任のある位置を占めることができるようになるのである。小学校の生徒に対しては、この目的のためにすでにいくつかのプログラムが行われている。「自己理解と他者理解の発達」をめざすDUSOプログラムは、主として子供の感情に関するものであり、これによって子供は「感情、目標、行動が、相互に関係している」ことを学ぶのである (Dinkmeyer)。同様のプログラムに人間性開発プログラムがある (Palomares)。これも、子供に自己と他者をよりよく理解させるためのプログラムであり、子供の感情に焦点を置いている。「マジックサークル」としてよく知られているプログラムは、子供に責任感と自信を持たせることを狙いとしている。子供を円形に座らせて、自身や他人についてどのように感じるかを、討論させるのである。討論を用いるもうひとつのプログラムは、「自覚」である (Eldo and Cooper, 一九七七)。これは、その名が示しているように、子供に、自分自身の考えや感情について自覚させるものである。その目的は、自分自身と他人について理解し、個々人の違いを認識させることにある。

普遍的な価値体系の中で、これらすべての概念を発達させる包括的なプログラムが、品性教育カリキュラムなのである。

三、品性教育カリキュラム

(1) 歴史

品性教育カリキュラムは、アメリカ品性教育研究所によって開発されたものである。この団体は、実業家、故ラッセル・C・ヒル氏によって設立された非営利の教育団体であり、テキサス州、サンアントニオに本部を置いている。価値観に関する長年の研究の結果、ヒル氏は「自由の法典」という論文を執筆した。その論文の中で彼は、教養があり自己信頼的な善意の人々の基準、及び、人が自由であるために守らなければならない生活の基準を列挙している〔注、シルバー（一九七六）は価値観を「行為の指針となり、態度を発達させ、維持し、道徳的判断を行うための、内面化された基準及び規範」と定義している。従って、今後は「自由の法典」の基準を「価値観」または「価値概念」と呼ぶことにする〕。ヒル氏個人の負担で、この論文は全国の小・中・高等学校に配布された。ヒル氏が、学校は生徒の品性向上に積極的に取り組むべきであるという確信を得たのは、この論文が多くの学校から求められたからであった。

ヒル氏と、大学教授、学区、協会の努力によって、経験を積んだ教師たちが、後に品性教育カリキュラムへと発展した授業を始めた。幼稚園から五年生までの教師がその生徒を対象に行うモデル授業が、五つの大都市で試験的に行なわれた。次の数年間に教材が改訂され、以後何回かの改訂が行われている。最新の改訂は一九八六年に行われた。それぞれの改訂においては、授業にたずさわる教師や、教材の作成に関係してきた人々からの提案

が取り入れられている。

(2) 目標及び目的

品性教育カリキュラムの目標は、責任ある市民を育てることである。この目標を達成するために、幼稚園から中学三年生までの生徒を受け持つ教師に、次のような目的を達成させるための授業用教材が提供されている。

- 一、自尊心を高めさせること。
- 二、自己修練を促進させること。
- 三、決断力と問題解決能力を向上させること。
- 四、積極的態度・価値観を持たせること。

これは教育における独創的でユニークな革新的概念ではない。しかし、生徒や父兄、教師が直面する問題の増加を考えると、品性の向上は今日の学校が果たすべき、最重要ではないにせよ、重要な課題であるといえよう。

責任ある市民とは、行動をおこす前に考える人である、その行動が自分自身や他の人々にもたらす結果を認識できる人であり、自己修練を、人生における目標達成の手段と認める人である。責任ある市民となる可能性が最も大きい生徒とは、自尊心を持つ生徒である。したがって、責任感のある生徒は、自尊心を高めるのである。私たちは、自分の義務や責務を果たした時には、自分自身について肯定的に思う。義務を果たしたくないと思いがらも、それを果たした時には、達成感を持ち、自分自身を誇りに思う。義務を果たせなかった場合、私たちは、

自己防衛的になり、義務を果たした人々に対して憤りを感じる。自尊心が足りなければ、責任ある市民にはなれないし、潜在能力を最大限に発揮できないのである。

品性教育カリキュラムが、生徒の自尊心を向上させるように考えられているのは、このような理由からである。自尊心は、個人の人格に積極的な影響を与え、それは一生涯持続するのである。

(3) カリキュラム

品性教育カリキュラムにおいて強調されている価値概念は、正直、誠実、勇気、確信、正義、忍耐、名譽、寛大、親切、協力、言論の自由、市民権、選択の自由、個人としての権利、時間と才能の利用、機会均等、経済的安定である。

① 英語とスペイン語の二ヶ国語版からなる幼稚園用教材には以下のものがある。

(a) 『楽しい生活シリーズ』は、六冊の動物物語からなり、各本では正直、寛大、協力、親切、公平などの教訓が盛り込まれている。教師用の手引書には、教師がそれぞれの物語を生徒に読んで聞かせる時に生徒に見せるための映画スライドがついている。生徒が物語の場面について、彼らなりの話を作る時に使うための補助本も与えられる。各本のうしろには、それぞれの価値概念のための用紙がついており、それぞれの用紙には、点線で囲まれたいくつかの絵が描かれている。これらの用紙は一回につき一枚ずつ切りとられ、教材の中に入っている。「お話の輪」と一緒に使われる。「お話の輪」の中にこの用紙を入れ、先生が輪を回すと、一つの場面が現れる。生徒は、その場面で一体何が起っているのか話すわけである。一人の生徒にすべての絵について話をさせてもよいし、一人につき一つの絵について話させてもよい。また、こ

の用紙を用いて透明シートを作り、それを「お話の輪」に入れてオーバーヘッドプロジェクターで映すこともできる。教師は、授業の効果を確かめるため、単元の終りに、小さなグループごとに分かれている生徒一人一人に対してこれらの教材を使う。動物の絵はコピーして、フランネル板に張りつけてフランネル板の人形にしたり、色紙として利用したり、あやつり人形を作るために利用される。これらは、生徒が、彼らの想像力を品性の概念について学んだことと結びつけるための別の機会を与えてくれる。

(b) 『あなたと私』も、『楽しい生活シリーズ』と同じ概念に基づいて作られている。この本では、生徒の家族、友達、隣人や、警官、医者、校長先生などといった、生徒が属するコミュニティの人々に焦点を当てている。教師が単元のお話を生徒に読んで聞かせ、生徒に質問をする時には、生徒に教師用テキストの中の絵を見せてやってもよい。それに続く討論の目的は、生徒に、彼らの生活における他人の存在を認識させることである。

② 『良き市民としての品性』

ポスター、活動用紙、評価用教材に加え、この教師用の手引書が各学年用キットの中に入っている。キットの教材は、学年制の学校と無学年制の学校で使えるように作られている。つまりレベルAが一年生用、レベルBが二年生用というようになっている（注、一九八三年に六年生用の教材、レベルFが、品性教育カリキュラムに組み入れられた）。レベルABCの物語りには、スペイン語版もある。

品性教育カリキュラムの単元は次のものである。

正義と寛大

誠実と正直

寛容、親切、協力

名誉

言論の自由、市民権

選択の自由

個人としての権利

時間と才能の利用

機会均等、経済的安定

これらの単元は、生徒の、他者についての自覚と、自分に与えられている権利に対する責任の自覚をうながすことを狙いとしている。生徒たちは、次の方法で責任ある市民になることの重要性を学ぶ。(一)大小のグループでの討論や、自分自身を肯定的に考える方法を学ぶための活動に参加すること。(二)仲間からの否定的な圧力に抵抗すること。(三)自分の行動が自分自身や他人にもたらす結果を判断すること。(四)目標達成のために自己修練を重ねること。

教師用の手引書、何枚かのポスター、評価用教材及び生徒用にコピーしたり、オーバーヘッドプロジェクトの透明シート作製のための用紙は教師が使用する。生徒用の教材は、小グループごとの活動で用いる活動用紙である。ポスターはすべての生徒が見ることのできる場所に掲示され、また、教師用ガイドで指示さ

れているように使われる。評価用教材は教材の効果を判定するためのもので、授業の前後にテストとして利用される。

各単元にはいくつかの行動目的がある。ひとつの行動目的を達成するために、授業が三から二二時限の割で用意されている。それぞれの授業につき、行うべき過程が示されている。授業ごとにその過程の数は異なるが、全体として二〇分から三〇分で終わるように作られている。

教師は、クラスで何か事件が起った時が、一つの授業を行う適切な機会であると思っているかもしれないが、この方法は事件に関係している生徒に、「試練を受けている」という感じを抱かせるにすぎない。単元中で扱われている概念や議論が、特定の生徒や出来事に関係していない時こそ、授業をより効果的に進めることができる。授業は修正手段というよりも予防手段なのである。ある概念が提示されると、その概念に関連のある問題が展開される。そのとき教師は生徒に以前の討論を思い出させ、その討論で出された結論を現在の出来事にどう適用するかを考えさせる。このようにして、教師はその概念を支持するのである。なぜならば、授業を行うことを正当化するような出来事が起ったからといって、一つの概念を提示するのではなく、一つの出来事そのものが学ばれ得るからである。

小学校用の授業は、学年、生徒の関心、授業での活動内容によって、一五分から三〇分間でできるように作られている。教師用の手引書には、一週間に三回の授業を行なうとして、一年間は使えるだけの授業が用意されている。教師は最初の授業を必ずしも第一単元から始める必要はない。生徒や教師自身の必要に応じた教材を使用すればよい。四年から六年生の教材には、危険な物質乱用の有害性に関する授業が盛り込まれている。

③ 『自分についての決断』

これは、中学生用に使われる教材レベルGの教師用の手引書である。この教材キットには、ポスター、活動用紙、及び、評価用教材が入っている。このレベルには、思春期という傷つきやすい発達時期の生徒が、決断し問題を解決してゆくための授業が含まれている。この授業は、ホームルームの時間に全体討論として行われる。また、その内容が、社会、保健、職業教育といった科目に役立つ授業もある。各単元のための授業は、これらの科目と関連しており、次のように編成されている。

社 会 正直と誠実・名誉・正義と寛大・言論の自由・市民権

保 健 個人としての権利・寛容・親切と協力・選択の自由・勇気と確信

職業教育 時間と才能の利用・機会均等・経済的安定

生徒は、大小のグループ討論や、自分自身を肯定的に考え、仲間からの否定的圧力に抵抗し、自分の行動が自分自身や他人にもたらす結果を予測し、目標達成のために自己修練を積むことを学ぶ活動に参加することにより、責任ある市民になることの重要性を知る。三〇分間の授業は一〇〇以上あり、そのなかには、アルコール、麻薬、その他の物質乱用の原因と結果を知ること、自分の才能をのばす責任の重要性を認識すること、「流行」を追い求めようとするこの問題を知ること、強力な指導者が持つ積極的な特性を挙げること、目標を達成する上での時間管理の大切さを認識すること、個人の評判を作り出す力を知ること、消費と生産が経済の安定に及ぼす影響を認識すること、投票や陪審などの義務を果たす、市民の権利と責任を明らか

かにすることなどが含まれている。

(4) 教師

品性教育カリキュラムにたずさわるときほど教師の態度が重要となる時はないだろう。教師は自分自身があまり興味をもっていない授業でも教えなければならないが、彼らは専門家として、最も効果的に教えようと熱心に努力している。しかしながら、品性教育を行う場合、教師は、子供の価値観を發展させたり、これらの概念が子供の人生にとってどれだけ重要であるかを教える前に、まず自分自身の価値観を確認する必要がある。教師の行為によって示される例は、授業で提示される考え方を強化するものでなければならない。すなわち、教師の、自身や生徒、教育、人生などに対する態度が問題になってくるのである。教師は生徒の自己概念を改善できると信じなければならぬ。生徒の自尊心の程度は、他の子供と仕事をしたり遊んだりできる能力を知る上での目安になるばかりでなく、学校の成績と直接関係しているということが研究の結果明らかにされている。教師は、まず、失敗を恐れる前に、生徒の努力を奨励し、努力の結果を認めてやることから始めるべきである。

品性教育にたずさわると教師は、授業中学生徒に積極的な態度を示すために、よい自己概念を持っていなければならない。教師の積極的な態度は、生徒にとって良い手本となるばかりでなく、実際に生徒の自己概念の改善にも役立つであろう。教師の積極的な態度は、生徒を個人として受け入れること、生徒の意見を尊重することによって示される。このような生徒と教師の交流は、他人を尊重するという重要な概念を育くむ上で大いに役立つものである。

教師が学習とは楽しく価値ある行為だと感じていれば、子供たちも教育に対して積極的な態度をとるだろう。生

徒を指名して発言させるのではなく、彼らに自発的に発言させるようにすれば、恐れや当惑が取り除かれ、生徒はリラックスし、他人に進んで心を開いていこうという気持になる。何を学ぶかではなく、どのように学ぶかが重視される時、学習経験は意義あるものになるのである。

生徒は、他人の立場に立たされることによって、他人や他人の問題をもっと容易に理解できるようになるだろう。未来と未来の問題を予測することは、それらの問題に対処するための実際的な方策をもたらすだけでなく、今日の現実と直面することによって、明日に備えることの重要性をも示唆する。他人の気持ちを注意深く考えながら、自分の意見を自由に表明することは、生徒にとって、最も重要な社会的技術であるといえよう。小グループ活動の中で生徒は、意見を交換し合い、感情や態度、思想について討論することによって、個々人の違いに対する寛容性を高めるとともに、自分自身の能力をも悟ってゆくのである。

(5) 教育方法

品性教育カリキュラムを用いる際に効果的な一定の教育法がある。それらは以下のものである。

① 討論

討論は品性教育プログラムの基本的要素である。討論のもつてゆき方によってその授業が「成功するか失敗するか」決まってしまう。授業の目的は、ある特定の価値観を強調する単元の枠組の中で、生徒を論理的に正しい回答に導くことにある。教師は、自分の意見を表明し、何が正しく、何が間違っているか生徒に自由に伝えたいと感じるに違いない。しかし、もし教師が、授業の終りまで、あるいは、生徒が意見を出し終えるまで待てば、討論を通じて生徒がその価値概念を内面化する可能性は非常に大きくなるだろう。教師

の役割はグループ討論の推進者の一人となることである。生徒の発言に対して、たとえそれがどんなにショックな発言であるにせよ、教師は「なぜそういうの?」とか「なぜそのように思うの?」と尋ねるべきであろう。もし教師が生徒の意見に対して賛成か反対の素振りを示すと、生徒は、自分が本当に思っていることではなく、教師が期待していると思われるような答えだけをいう可能性が出てくる。「君はそれをやりたくないんだろ?」とか、「君はこれとあれのどちらをしたいんだね?」と質問する代わりに、まず、「君ならどうするんだい?」と尋ねるべきである。このようにすれば、生徒は自分の立場を明らかにしなければならない。教師は生徒に、他人に心を開くことや他人に対して寛大であることの例を示す。これは生徒の思考に影響をおよぼすだろう。生徒に、自分の問題を解決する代替的方法の探索を行わせなければならない。彼らが意志決定する前に、入手可能なすべての情報を集めさせ、彼らの行動が彼ら自身と他人にどのような結果をもたらすか考えさせるべきである。討論はすべて、その討論中に出された重要な点を要約する形でまとめられる。それらを黒板に書き出させるのも有効な方法であろう。

討論を通じて培われた意志決定と問題解決の技術は将来にわたって役立つにちがいない。

② 実名や個人的例を用いること

教室での討論は、生徒のための集団治療の場ではない。授業や活動は、生徒に自分の両親について語らせたり、個人的な経験を発表させることを意図するものではない。授業のテーマは、生徒の世界と関連しているため、討論の中で生徒が「私のお母さんがこういったの:」とか「僕のおじさんがこういった:」と言わないようにさせるのは事実上不可能である。しかし、自由に意見を言わせ、しかも一般的な事柄に基づいた

討論にするために、生徒に「僕の知っているある人がこういった（こうした）」と話すよう指導すべきである。このようにすれば、彼らは、バカにされると恐れたり、実在の人の名前をあげ、知り合いの人について話すという罪の意識を感じることなく、自分の経験を話すことができる。もしある生徒が、「僕のお母さんは旅館のタオルを持って帰ってきちゃったんだ」と話したとすれば、その生徒に、自分の母親が話題になり裁かれているという気持ちを抱かせることなしに、討論を進めることは困難になる。もしその生徒が、「僕の知っている人は旅館からタオルを持ってきてしまった」という表現をすれば、その状況について容易に討論できるであろう。

③ ロール・プレイング

親や教師は、子供が何か悪いことをしでかすと、「もしだれかが、あなたにそんなことをしたら、あなたは どう思うの?」とか「もしだれかが、あなたにそんなことをいったら、どう感じるか考えてもらいなさい」といつてしかりつけることがよくある。ロール・プレイングは、他人の立場に立たせることにより、社会的自覚を発達させる重要な方法であるから、時間が許す限りなるべく行なうべきである。ロール・プレイングの方法としてはいくつ複雑な方法があるが、一つの効果的な方法は、「君がウォークマンをほしがっているということを知っている君の友達が、君のために一台盗んできてやるといつてきたら、君は何と答えますか」と質問することである。ロール・プレイングは次の点で生徒の役に立つ。(一) 自分自身の行動を分析し、その因果関係を明らかにすること。(二) 社会における異なった役割を実感すること。(三) 架空のものではあるが、このような問題状況の中に置かれることによって、問題解決と意志決定の技術を高めること。(四) 他人が求めているものや、抱えている問題を理解することである。

④ 集団訓練

多くの授業では、生徒は五人ずつの小グループに分けられる。こうすれば、課題を果たすためにお互いに協力することの重要性を認識し得る。子供が、できるだけ小さい時に学ぶべき、極めて重要なギブ・アンド・テイクという考え方が、すべての授業の中で重視されている。

四、評価

品性教育カリキュラムの効果を測るために行われた調査は、国内のいくつかの学区で肯定的な結果を出している。喜ばしいことに、いくつかの調査データは、この授業が生徒の自己概念を改善し、良き市民としての態度を育て、授業への出席率を高めていることを示している。評価はすべての教育プログラムの開発途上で常に考慮されるべきものである。主として生徒の感情に関するプログラムを教室で使おうとする時、まず第一に問題となるのは、「それが効果的なプログラムであることを、どうやって証明するか」ということである。生徒の認知的成長が容易に測定できるプログラムと違って、これらのプログラムがその有効性を証明するためには、個人的な調査や、アンケート、態度自己評価法に拠らなければならない。

品性教育カリキュラムの効果はさまざまな方法で測定されつつある。一九八三年の春にアメリカ品性教育研究所は、全国の千人以上の学校長及び教師にアンケートを送り、このプログラムを行ったあとで生徒の行動に顕著な改善が見られたかどうか質問した。その結果は非常に肯定的なものであった。この評価は研究所にとって特に重要なものであった。なぜなら、回答者は率直であるように求められ、無記名で回答できたからである。返信用封筒が同封されており、回答用紙は直接、研究所に返送された。

品性教育カリキュラムを評価するための最近の調査は、このようなさまざまな方法で行われており、その結果は興味深く、有益なものである。

テキサス州、サン・アントニオで行われた調査結果は最も興味深いものの一つである。この調査によって、品性教育カリキュラムを採用したクラスでは、子供の自己概念が向上したことがわかった。どの報告書も、生徒の自己概念が高まると、学校の成績も上がったと報告している。この調査が行われるまでは、自己概念の増加が品性教育カリキュラムの導入によるものだと示すために、教師や両親、当局者や生徒自身からのコメントに拠らざるを得なかった。現在では、サン・アントニオ独立学区の協力のお蔭で、品性教育カリキュラムを用いると生徒の自己概念が向上すると断言できるのである。

サン・アントニオの同じ学区で行われた別の調査では、一〇の小学校の教師に質問票を配った。それによると六〇%以上の教師が、品性教育カリキュラムを支持している。なぜなら、それは、生徒に責任感を植えつけ、校庭での行動や教室内での社会的行動を改め、生徒の言葉使い、行動、態度を改善する上で効果があったからである。

ピッツバーグ及びペンシルバニアで行われた広範な調査でも、品性教育カリキュラムは生徒に、良き市民としての態度を身につけさせる上で効果的であるということが分かった。ゲンニコラス博士の報告によれば、「教材は、目的どおりの機能を果たしている」。

五、品性教育に対する援助

一九八二年七月二七日から三〇日にかけてミネソタ州ミネアポリスで開催された第六七回キワニス国際会議で

次の決議が採択された。

決議五 品性教育プログラム

すべての国の教育プログラムの基本的課題は、品性と価値観の向上でなければならない。……価値観及び品性、つまり、自分自身と他人の生命及び財産を尊重すること、を教える品性教育プログラムの小学生用カリキュラムは、すでに使用可能である。このプログラムを開始した学校では、それまでの暴力行為が八〇%も減少した。多くのキワニスクラブは、このようなプログラムのためにすでに資金を提供している。

それ故に、以下のように決議する。

- 一、キワニスクラブは、地方の学区における品性教育プログラムを積極的に支援する。
- 二、キワニスクラブは、品性教育プログラムに対し、必要とされる場合に財政的な援助をする。

過去数年間、何百もの教室で品性教育カリキュラムが実施されてきたのは、キワニス・インターナショナルの寛大な援助によるものである。各クラブの会員は、自分たちの時間をさいて活動してきたばかりでなく、各学校区がこのプログラムを実施するために必要な資金を提供してきたのである。

六、結論

タイム(一九八七)、教育リーダーシップ(一九八六)などの雑誌に見られるように、品性、倫理、及び価値観に対する一般の人々の関心は高まっている。また、これらの調査結果は、品性教育カリキュラムのような教育プ

プログラムの必要性を示している。

ロバート・ラ・コンテ（一九八三）は、子供に人生を歩む準備をさせるためのプログラムには、共通して次の三つの要素があると述べている。「一、代替案の探索。二、問題解決、批判的思考及び意志決定の重視。三、生徒に『もしよならば、』と考えさせ、結果に対する感覚を発達させること。』これらの要素はすべて、品性教育カリキュラム全体に盛り込まれている。

生命を脅かすエイズの問題は、今日の青少年が直面する多くの問題の一つにすぎない。もし我々が、青少年により質の高い人生を送らせるために、彼ら自身の行動に責任を持てるように手助けをしないのならば、我々は、彼らに未来を残すためにも、少なくとも我々自身の行動には責任を持つべきであろう。